



郡仙台市長らのテープカットでグランドオープン。後ろに見えるのは、温浴施設や売店がある管理棟。随一の見晴らしを誇る丘の上に立つ



式典には、近隣の福岡小学校に通う生徒も参加。県の無形民俗文化財で、地域に受け継がれている「福岡の鹿踊・剣舞」を披露した



内風呂と露天風呂を楽しめる温浴施設。山の中で浸かる天然温泉の贅沢さたるや!



広葉樹に囲まれたフォレスト・サイト。整備されながらも、手つかずの自然がそこかしこに



ウッドデッキや芝生の上がマイオフィス。時間ごとに変わる景色が目も心も癒やしてくれる



栗駒山の木材を9割使用。室内からも自然の温もりを存分に感じられるコテージ



コテージを活用した法人向けプランもスタート予定。快適な通信環境のもと、プロジェクターや電子ホワイトボードの貸し出しもある



泉ピークベース
スタッフ 大類明日香さん(左) 支配人 尾形徳貴さん(右)

information



泉ピークベース

住所 / 仙台市泉区福岡字岳山8-1
TEL / 022-347-3356 (受付時間9:00~21:00)
料金 / 10月31日(月)までのキャンペーン価格
●フォレスト・サイト 1泊8,800円~
●サウス・ビュー・エリア 1泊3,300円~
日帰りデイキャンプ1日2,200円~
●コテージ 1泊33,000円~
WEB / <https://peak-base.com>



巻頭特集

泉ヶ岳でかなうレジャーとワークのベストバランス

ワーケーションエリア 泉ピークベース誕生

3密を避けられるレジャーとして近年人気を集めるアウトドアと、観光地で働きながら休暇をとるワーケーション。どちらもかなう、新しいコンセプトの施設が泉ヶ岳にオープンした。注目施設の楽しみ方を紹介する。

温泉もWiFiも完備 今までにないキャンプ場

春夏は登山やピクニック、秋は紅葉、冬はスキーやスノーボードを楽しむ、校外学習の場でもおなじみ。一年中、市民のレジャースポットとして愛されている泉ヶ岳の中心に、7月28日、泉ピークベースが誕生した。

9・58ヘクタールの敷地内には、ワーケーションに対応した4棟のコテージとキャンプサイト、天然温泉の湧き出る温浴施設がある。一部エリアを除いた施設全体に5GとWiFi環境が整っていて、山の中でありながらインターネット接続もストレスフリー。

コテージのデスクはUSBポート付き、さらにはシャワーやキッチンも備わっており、暮らすように滞在した。

くから雨乞い信仰の対象で、登山道の名前にもなっている水神にちなみ、泉ヶ岳水神温泉と命名された。施設名称は地域の人に名付け親になってもらいたいと、仙台市民から募集。904件の応募の中から、泉ピークベースに。泉区の泉ヶ岳にあるから泉で、ピークは岳、ベースはキャンプ場などの意味を持つ。

泉ヶ岳の大自然の中で暮らすように仕事をする

かつてリンゴ園だったこの場所は、閉園から50年以上、利用されていなかった。国内ではこうした遊休地の活用が進められており、土地を保有する総合建設業者の日本国土開発株式会社は、5年前からキャンプ場の建設を進めていた。その途中でコロナ禍に。

同社はコロナ前からリモートワークを推奨。全社員にノートパソコンと携帯電話を支給していたた

在できるのが魅力だ。テントを張って自分の基地をつくれるキャンプサイトは、中央部に位置するビュー・エリア、泉ヶ岳を見上げるサウス・エリア、車の乗り入れ可能な区画割りをしたフォレスト・エリアがある。

標高は、およそ500メートル。天気の良い日には仙台の街並みから太平洋まで一望できる、絶景ロケーションが素晴らしい。「幻想的な雲海が見えたり、雨上がりに虹が現れたり。季節や天候によってさまざまな表情を楽しめますよ」と教えてくれたのは、支配人の尾形徳貴さん。「一日の終わりに、眼下に市街地の夜景が広がり、見上げれば満天の星空が。そして新たな一日を、海から昇る朝陽とともに迎えられる。感動の景色まで、仙台駅から車で

め、予期せぬパンデミックにも迅速に対応でき、業務への支障は少なかったという。しかし、家では作業に集中できない、一日3食自炊というストレスも、同社のみならず多くの企業が、新しい生活様式での働き方に試行錯誤していた。

シェアオフィスや coworkingスペースもあるが、仕事のために外出するのは出勤と変わらない。ならば、リフレッシュも兼ねられないか。そこで生まれたのが同施設だ。キャンプ場の計画にワーケーション事業を追加。同社は、遊休地を活用して地域に観光資源を創出するとともに、施設を通して全国の企業が抱える課題の解決を目指す。

日常から離れ、自然の中で触れる新鮮な空気や四季折々の風景は、日々忙しく過ごす私たちにとって最高のヒーリング。肩の力が抜けて思考の癖もほじけることで、新しいアイデアが生まれたり、大切な人と

約45分。アクセス良好で、泉区や富谷市ならそこまでかからない。ふらつと立ち寄れるリゾートができてうれしい。テントなどのキャンプ道具はレンタルが可能で、バーベキューセットを予約しておけば、食材も不要。手ぶらでキャンプを楽しむ、ビギナーにもやさしい。

冬季休業するキャンプ場も多い中、同施設は通年営業する予定。尾形さんによれば、キャンプ通の間では冬のキャンプが人気だそう。「雪遊びはもちろん、寒い中で楽しむ焚き火やコーヒーの温かさは格別。今年の冬はぜひ、当施設で冬キャンプに挑戦してみてください」と話す。

天然温泉のあるキャンプ場も珍しい。地下1300メートルから湧き出る湯は黄色がかかった色で、泉質はカルシウム・ナトリウム・塩化物泉、低張性アルカリ性高温泉。古

より親密な時間を過ごせたり。オープンに先駆けて、同施設で新入社員研修を実施したところ、早速手ごたえがあった。泉ヶ岳の解放感の中で人間性を出して打ち解けることができ、チームワークが生まれるのを実感したという。

開所式には、郡和子仙台市長や木村賢治朗泉区長も出席。郡市長は祝辞で、「市民の憩いの場である泉ヶ岳の魅力も、さらにグレードアップしていただけて感激しています。自然回帰の風潮が高まる中、コロナ禍での感染防止対策を踏まえた働き方としても、日本全国、あるいは世界に発信する拠点になるだろうと期待を待ちました」と話した。